

2011年12月20日【外為L a b】松田哲

タイトル:【休養して来年の相場に備えよう】

今週はクリスマス、来週は大晦日です。

歳が押し迫ってからもいくつかの材料が出ていますが、この時点でマーケットが動こうと、あるいはデットな状態（ほとんど動かない状態）を続けようと、そのことにはさほどの意味はありません。

材料はすべて来年に持ち越しです。

日本の師走は気忙しく、逆に何かしていないと落ち着かない感じがしますが、外国為替市場は欧米の風習に則って動いているので、郷に入っては郷に従うべきでしょう。

この時期の外資系金融機関で働く人の多くは休暇に入っています。

日本で働く欧米人のヘッドクラスや好成績をあげたトップ・ディーラーであれば12月早々には帰国して故郷でくつろいでいるはずです。

その代わり大晦日には日本へ戻り、元旦を休んで1月2日から活動再開。

1月は重要な月なのでしっかり働きます。

私たち日本の投資家も、今はしっかり休んで来年に備えましょう。

ただし彼らみたいに2日から働く必要はありません。

それぞれが決めた正月休みが明けてから、徐々にスピードを上げていけば良い、と考えます。

(2011年12月20日東京時間14:20記述)